

学習意欲の向上を図る道徳の時間の実践

【加須市教育委員会】

1 学校、学年、教科 中学校、第1学年、道徳 内容 1-(4) 真理愛、理想の実現

2 ねらい

道徳の時間において、学習への適応を図る主題を設定することにより、内発的な動機付けから学ぶ意欲を喚起し、学びの土台をつくる。

3 取組内容 —第1学年の実践事例から—

(1) 主題名 学ぶ心がまえ (内容項目 1-(4) 真理愛、理想の実現)

資料名 「藩主に学問を教えた渋井太室」

(出典：副読本「かけがえのないきみだから」学研)

(2) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値について

本主題「学ぶ心がまえ」は、内容「真理愛、理想の実現」を根底に、学ぶこと、学び続けることの大切さをクローズアップしたもので、学習への適応をねらうためには欠かせない指導項目である。道徳では、この価値を内面的に自覚させて生徒の心を耕し、学ぼうとする素直な気持ち＝学ぶ意欲を培い、学級活動を核とした特別活動で実践力を養い、日々の学習生活の中でその力を発揮させるべく、本主題を設定した。

② 生徒の実態について

今までの学習の中で小さな目標を立てて取り組んでいくことは実践してきたが、自分の理想とする目標の実現について粘り強く努力したり、継続して学習を進めたりする生徒は決して多くはない。そこで、学ぶことの心構えや学び方を身につけていく大切なこの時期に、学習に対する興味関心を高めさせていくとともに、真理を貫くことの大切さと難しさに気付かせ、自己の成長につなげさせたい。

③ 資料の活用について

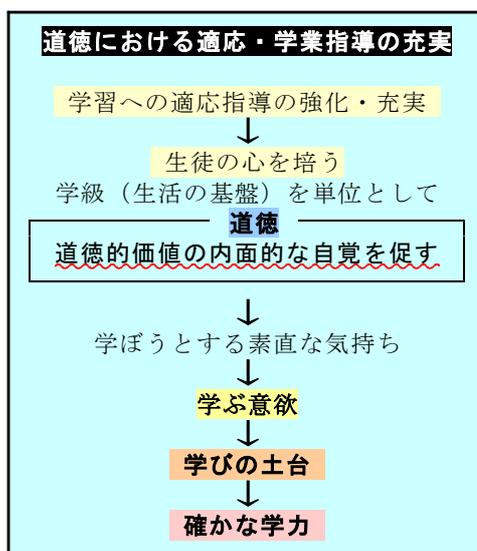
本資料は、学研「かけがえのないきみだから」(学研・埼玉県版)からの出典で、学習への適応指導を直接的に扱った数少ない読み物資料の一つである。学習への適応を図るためには、活用するに最もふさわしい資料であると考えられる。また、本書は巻末に埼玉県郷土資料のコーナーを設け、地域に密着した資料を提供している。原作は羽生市教育委員会であり、隣接する羽生市出身で江戸時代に活躍した漢学者、渋井太室の少年時代の逸話にスポットを当てている。太室が数の「数え方」を通して学びの本質をつかんでいく過程に着目させ、真理や真実をとらえるためにはどういう生き方をすべきかを自己と重ね合わせながら考えさせたい。中学校第1学年には、なかなか難しい内容であるが、導入の段階で太室と同様の疑似体験をさせたり、展開中の補助資料・説明を充実させるなどの工夫を加えて、ねらいとする価値「学ぶ心がまえ」へとアプローチしていく。

(3) 事前指導

① 学習に対する姿勢や、つまづきやすい点に関するアンケート調査を行い、生徒の実態を把握し、まとめておく。

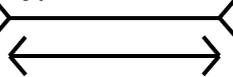
② 展開中に発表予定のある生徒(アンケート調査の結果)に対し、教師の意図や発表の仕方を指導しておく。

(4) ねらい



自己の人生を切り拓いていくために、目標をもって物事を深く探求することの大切さを理解し、真実を求めて生きていこうとする態度を育てる。

(5) 学習指導過程

過程	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◎評価の観点
導入	<p>○本時の学習に関する疑似体験をする。</p> <p>◇鳥は全部で何羽飛んでいる？</p> <p>◇A・B、どちらの線が長い？</p>	 <p>●太体△羽、多分△羽ぐらい。</p>  <p>●Aの方かな…。</p> <p>●Bの方だろう。</p>	<p>○錯視図を数点用意して提示する。</p> <p>○生徒の興味関心を高めるとともに、資料の理解が深められるようにする。</p> <p>○本資料の主人公が、同様の体験をしたことを伝え、問題提起を行う。</p>
展開	<p>〈資料渡し〉</p> <p>○太室の生い立ちや業績などを紹介する。</p> <p>○資料「藩主に学問を教えた洪井太室」の範読を聞き、話合いの方向性をつかむ。</p> <p>○論語を実際に見る。</p> <p>○太室の学びに対する見方や考え方について話し合う。</p> <p>〈話題の整理〉</p> <p>①祖父から勧められた「四書」を読むことに行き詰まったとき、太室の思いはどんなだっただろう。</p> <p>②祖父の問いに何を答えても「よくない」と言われたとき、太室はどんなことを考えていただろう。</p> <p>③やっと祖父から勧められたとき、太室は「よくない」と言われた理由を</p>	<p>●この地域にこのような歴史上の人物がいたのか。</p>  <p>●読めない。わからない。</p> <p>●何と書かれてるのか。</p> <p>●どんな意味なのか。</p> <p>●難しく、なかなか内容が理解できない。</p> <p>●時間ばかりかかって読み進められない。</p> <p>●意味がわからず辛い。投げ出したい。</p> <p>●自分の数え方のどこがよくないのかわからない。</p> <p>●批判されて悔しい。認められる数え方ができるようになりたい。</p> <p>●物事を正しく捉えるには勘や推測ではなく、実際にしっかりと調べることが重要である。</p>	<p>○主人公太室への興味・関心を高め、彼の学問追究の基盤となった学びの本質を探っていくという課題を提示する。</p> <p>○簡単に紹介し、難しいことを学んでいたことに気付かせる。</p> <p>○学びの本質を探るためのステップとして、太室の考え方を中心に話題を生徒とともにつくる。</p> <p>○あらかじめ、資料の中の「論語」を抜き取っておく。</p> <p>○難解な語句などに阻まれ、読み進めることができない焦りと苛立ちに不安を募らせる太室の思いに共感させる。</p> <p>○祖父から指摘された口だけでの数え方、遠目に見ての数え方、心の中だけでの数え方を手がかりに問題点を探らせる。</p> <p>○祖父が伝えたかった学ぶ心がまえを体験させながら感じ取らせる。</p> <p>○祖父から教えられた“学ぶ心がまえ”が、学問追求の拠り所となっていたことをおさえる。</p> <p>◎学問の本質は、真理や真実を探究することにあると悟り、以後、粘り強く主体的に学ぶことに価値を見出した主人公</p>

	<p>どのようにわかったのか。</p> <p>○導入に行った疑似体験の正解と説明を聞く。</p> <p>〈自己を見つめる〉</p> <p>◎祖父から教えられた「学ぶ心がまえ」とはどんなことか。</p> <p>○資料から学んだことを基に、自己を見つめる。</p>	<p>●学問は、自ら調べ、確かめながら本質を極めていくことなんだな。真理を求める心が大切なんだ。</p> <p>●正解(真理・本質)とはこういうものなのか。</p>	<p>の心を理解できたか。</p> <p>[ワークシート、発表]</p> <p>○太室の経験を自分の体験と照らし合わせることができるよう配慮する。</p> <p>○ワークシート記入のための時間を確保する。</p> <p>◎わかった喜びや自力で解決できた喜びを感じ取り、自分の教科などにおける学び方の課題が確認できたか。</p> <p>[ワークシート、発表]</p>
<p>終末</p>	<p>○目標を達成するために大切なことについて考え、『心のノート』に記入する。</p> <p>○教師の話をして本時のまとめをする。</p> <p>【以下選択】</p> <p>A 伏せておいた資料の最後の段落を読んで紹介する。</p> <p>B ゲストに古文書を読むことができる社会科教師を招き難解な古文書を示し実際に読んで聞かせる。</p> <p>C 展開中で提示した論語を読んで聞かせ、意味を説明する。</p> <p>D 先輩からの「私の学ぶ心がまえ・学び方」のメッセージを聞く</p>	<p>※生徒の状況により、A～Dの組み合わせによって話をまとめ、余韻を残して終わるようにする。</p> <p>○Aは、資料中最後の段落をあらかじめ削除し抜粋したものを生徒に渡しておき、ここで提示、後の太室の大成について知らせる。</p> <p>○Bは、難解なものも学ぶ心がまえ次第でわかるようになることを伝える。</p> <p>○Cは、資料中の論語を口語訳してその意を説く。</p> <p>○Dは、学習法を確立している先輩の学び方から、自ら学ぶ意欲を高める。</p> <p>Cの読み及び口語訳</p> <p>〈読み〉子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。人知らずして慍みず、また君子ならずや。」と。</p> <p>〈口語訳〉勉強したことをくり返し考え、くり返し行っているうちに、その道理がわかり、すらすら実行ができるようになってくる。なんとよるこばしいことではないか。友だちが自分の徳を慕って遠方からたずねてくれる。なんと楽しいことではないか。遇不遇は天命によるもの、人が自分を認めてくれなくても心を乱されることなく、常に天命に安んじ道を楽しむことができる人であってこそ、本当の君子なのではないか。</p> <p>子…先生(孔子のこと)</p> <p>君子…人格者。自分を見失うことのない人</p>	<p>○ワークシートとともに『心のノート』P21,22を併用し、生活への想起を図る。</p>

4 その他、道徳で重点的に扱った主題「資料名」(学研)

【第1学年】強い意志「実践目標は小さきみに」

【第2学年】強い意志「わたしと部活動」、粘り強い心「人形づくり」

【第3学年】将来の希望と強い意志「超高压ウォータージェット技術の開発」、他に学ぶ広い心「父の博士号」、強い意志「東京で学びたい」